

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和 7 年 5 月 1 日現在 江戸川区立小岩小学校

全国学力・学習状況調査		
A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和 8 年度の目標	75.0%	60.0%
令和 7 年度の目標	70.0%	55.0%
令和 6 年度の結果	69.5%	37.4%
令和 5 年度の結果	52.6%	54.0%

令和 6 年度江戸川区学力調査結果		
A・B層の割合		
学年	国語	算数
第 6 学年	44.8%	46.5%
第 5 学年	53.3%	48.4%
第 4 学年	35.2%	29.2%
第 3 学年	40.3%	50.8%

 ともに、生きる。 江戸川区	目標達成に向けた取組		
	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	○校内研究の充実:「主体的に思考・表現する児童の育成」をテーマに、算数科で、児童が「やってみよう！」と主体的に授業に取り組める手立ての工夫と思考・表現する力を育成する指導の手立てを検討し、授業づくりを行う。 ○全国学力テスト、TBD(年間で活用) の分析、日頃の児童の学習状況把握による対策、改善、見直しを行い、授業改善を図る。 ○OJTや校内での研修を通して、若手教員の育成や、一人1台端末を活用した授業など指導力を高める研修を行う。	○「小岩っ子の学び方」(学習のスタンダード):基本的な学習の流れ、発言の仕方や聞き方等の全学年統一をする。 ○週 3 回の朝学習を通して、読むYOMUの取り組み、TBDや江戸川区学力定着度調査の問題を活用した学習を行い、基礎的な学力の定着を図る。 ○読書科の授業や週 2 回の朝読書を通して、本で学ぶ児童を育てる。 ○マスマスウィークを通して、計算技能の定着を図る。	○家庭学習は、校内で共有・共通理解のもと実施する。 ○家庭学習の方法を児童や保護者に伝えることで内容の充実を図る。(学年×10+10) 分間の家庭学習習慣が身につくよう呼びかける。 ○一人 1 台端末、デジタルドリル、東京ベーシックドリルの活用。朝学習、家庭学習、授業で活用を広げる。 ○学期に 1 回のスタディウィークで、ドリルパークでの学習に取り組む。
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	○ヒントカードやワークシート、算数で使う具体物など準備をし、児童が必要に応じてそれらを使いながら問題を解決できるよう、授業準備を行う。 ○算数科の習熟度別において、算数少人数専科と学年で配慮が必要な児童について共有し、問題内容の検討や教員の工夫をし、数学的な活動を通して理解できるようにする。 ○スクールカウンセラー、特別支援教室(さくら教室・ひまわり教室、巡回指導)、日本語教室(ふじ教室)と連携し、必要な支援方法や対策を進める。	○「小岩っ子の学び方」(学習のスタンダード)の確認 ○放課後学習教室「EDOスク」の実施・活用: 4 年～6 年で実施、CD 層への働きかけを行う。	○保護者と相談しながら、児童の実態に応じて配慮を行う。(分量、内容など、選択できる課題) ○一人 1 台端末、デジタルドリルの活用で難易度・分量など個々に合ったコースを選択させる。
成果指標	○全国学力調査等の結果 算数・国語 全国比同率。 ○全国学力調査質問用紙「自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか」肯定的な回答の割合85%。 ○全国学力調査質問用紙「授業の内容はよく分かりますか」肯定的な回答の割合85%以上。	○東京ベーシックドリル/江戸川区学力定着度調査において、8 割以上の正答率を達成している児童が 2 回目 6 0 %、3 回目 7 5 %を達成しているか。 ○マスマスウィーク合格率(全問正解)が80%以上達成しているか。	○教員による把握。(記録を比較する等、継続して実態を把握し、働きかけていく。) ○学校の授業時間以外の勉強時間 1 時間以上の回答割合 70%以上になっているか。 ○スタディウィークの全児童の目標学習時間の達成率が 8 0 %以上になっているか。